

## 【議事概要】

### 小型衛星の打上げ機会提供に係る公募の実施について

JAXA の石塚 産学官連携部長が、資料 15-2 を説明（(参考) と表示された募集案内は説明を省略）したあと、以下の質疑応答があった。

松尾：難しさは解るがリストに順位を付けるようなことは考えていないのか。いつ頃打ち上げられるのか全く見当が付かないことは、提案者にとって不安なことである。

石塚：(ピギーバックの難しさを説明し、途中で遮られる。)

松尾：だから「難しさは解る」と申し上げている。チャンスがいつ来るのか分からないのは不安である。何か見通しをつけられる配慮が必要である。

井口：2～3年前に副衛星の検討を行った。このときに何か決めたと記憶している。これを参考にすると良い。

松尾：次に、各種試験が厄介である。JAXA は手伝うのか。

石塚：(JAXA は宇宙活動への参入の) しきいを下げると言いながら、安全基準で厳しく求めるのは矛盾と認めている。しかし、主衛星への悪影響を阻止することが最も重要であり、厳しく要求しなければならない。何度も調整に足を運ぶことを避け、負担を軽減しようと考えている。

井口：手伝うことは想定しているのか。

石塚：委託を受けるというケースは考えられる。<sup>2</sup>

青江：なんで（取り組みがこんなに）遅くなるのか。また、営

利団体をなぜ募集対象からはずすのか。

石塚：数年前から検討を始めていたが、H-IIA の（打上げ能力の）余剰ができなかった。その見通し（平成 20 年以降）が立ったので今になった。税金を使って事業を行うので、営利目的の打上げは民営化（三菱重工に移管）後に考えることと想っていた。

青江：無料で良いとは言っていない。料金を取れば良い。

石塚：考えていなかった。

(誰か)：独立行政法人なので料金は徴収できる。<sup>3</sup>また、特殊法人のときにでも徴収することはできた。

野本：「小型衛星選定委員会」で選定するとのことであるが、もう（組織が）できているのか。提案があっても受け手が不在になることの無いようにして貰いたい。

石塚：理事長も力を入れており、JAXA 内の各専門分野の人選はほぼ終了している。外部の委員も計画しているが、これはまだ決まっていない。

井口：副衛星の議論をしたとき、応募資格を外国人にまで広げたと記憶している。「共同者」に「外国人」を記載するのはどういう考えなのか。

石塚：国内組織の外国人、共同研究の外国人を想定している。

井口：提案が少ないうちは問題にならないが、多くなったときの公平感が大切である。差別を受けたとの印象が残らないよう、気を付けて貰いたい。

<sup>2</sup> 「できるだけ回避したい」と考えているように感じられる発言であった。

<sup>3</sup> 「できる」「できない」の問題ではなかろう。JAXA は煩わしいことに手を出したくないのではないか。